

TOS開局55周年記念時代劇ドラマ「はぐれ鴉」 京都撮影（囲み取材）情報解禁

神尾楓珠さん

「時代劇として正解かわからないけど
オ次郎の気持ちで精いっぱいやっています」



TOSテレビ大分開局55周年記念として
赤神諒原作『はぐれ鴉』（集英社刊）の時代劇ドラマを制作！

寛文六年、竹田藩で起きた凄惨な事件。
ただ一人逃げのびた主人公による復讐劇。
誰が敵で、誰が味方なのか。

隠し通された秘密が明らかになる…。

放送はテレビ大分で2025年7月を予定。

【物語】

寛文六年、豊後国・竹田藩で城代一族郎党含め二十六人殺しという凄惨な事件が起きた。

一人逃げのびた幼き次郎丸は復讐のため、江戸で剣の腕を磨き山川才次郎（神尾楓珠）と名を変え、叔父である現城代・玉田巧佐衛門（椎名桔平）がいる竹田の地を十四年ぶりに踏んだ。長い時を経て再会した巧佐衛門は、兇行を目の当たりにした当時の印象と違い、みすぼらしい容姿で、高位にありながら地位や名誉に関心がない変わり者“はぐれ鴉”と周囲から噂されていた。

そして才次郎は竹田小町と評判の巧佐衛門の娘・英里（山本千尋）と出会い、予期せず惹かれていく。恋か復讐か、千々に乱れる心を抱きながらも、煮え滾る復讐心を支えに必ずや叔父を討つと心に誓うのだが……。

【概要】

タイトル：TOS開局55周年記念時代劇ドラマ「はぐれ鴉」

放送：2025年7月予定（テレビ大分）BS11 他放送予定

原作：赤神 諒『はぐれ鴉』（集英社刊）

出演：神尾楓珠 椎名桔平 山本千尋 財前直見 他

監督：山下 智彦

脚本：松下 隆一

制作著作：テレビ大分 メディアプルポ

制作協力：東映京都撮影所

協力：大分県 竹田市 杵築市 国東市 豊後大野市 臼杵市

公式HP：<https://www.tostv.jp/haguregarasu>

大分に次いで京都撮影敢行 無事クランクアップ！

TOS開局55周年記念時代劇ドラマ「はぐれ鴉」。

1月10日～12日の大分ロケに続き、1月20日から京都で撮影を実施。

1月28日には、撮影現場をマスコミなどに公開しました。

主人公の山川才次郎（神尾楓珠さん）が、仇敵で叔父である玉田巧佐衛門（椎名桔平さん）に自らの正体を明かし、なぜ残虐な事件を起こしたのか問い詰めるという緊迫感あるシーン、そして見どころの場面の一つです。巧佐衛門の娘である英里（山本千尋さん）や玉田家の家人・平兵衛（野添義弘さん）も出演し、数時間かけて撮影が行われました。

2月12日にはキャストが出演する全シーンの撮影を終了し、無事にクランクアップしました。



撮影後の囲みインタビュー取材

撮影後には神尾楓珠さん、椎名桔平さん、山本千尋さんの3人が囲みインタビュー取材に応じました。

Q. 緊張感あふれるシーンの撮影でした。いかがでしたか？

神尾さん（山川才次郎役） （巧佐衛門への）憎しみだったりとかを緊迫感の中で表現しようと思っていたので緊迫感のあるシーンになっていたといいなと思います。

椎名さん（玉田巧佐衛門役） 巧佐衛門と才次郎の2人の関係を、寒風吹きすさぶ中うまく表現できたんじゃないかと思います。

山本さん（英里役） 台本を読ませていただいたときに個人的には一番このシーンが難しい課題のシーンだなと思っていました。実は今日が父上（椎名さん）と目を合わせてお芝居するのが初めてだったので、感慨深い一日になりました。

Q. 神尾さん、大先輩の椎名さんとの共演はいかがですか？

神尾さん 椎名さんはオーラがあります。佇まい、風格が面と向かうとさらに感じますが、それに飲まれないようにしようというのは常々思ってやらせていただいています。本当に優しく、迷っていることがあったらアドバイスしてくださるので、それが僕はすごくありがたくて。本当に大先輩ですけど、良い方とご共演させていただけたなと思っています。

Q. 椎名さんのアドバイスとは!?

椎名さん 飯食いに行こうか、とか（笑）。神尾くんは初の時代劇ドラマでしかも主演でハードルが高いというところは見受けられるので、山下智彦監督も京都で指折りの名監督ですから、そういうご指導の下、京都の時代劇の専門のスタッフの皆さんに揉まれている神尾くんの姿が非常に愛おしくて。芝居としてもうちょっとこうした方がいいなというところは、1つ2つくらいアクションのところですね。

神尾さん ちょっとパニックになりかけたときとかに（アドバイスいただいた）。

椎名さん 周りの皆さん、時代劇のプロの方々細かく教えてくださる。僕も初めてタスキをぱっと取ってね。こういうタスキの取り方なんかも「こうするんだな」みたいなね。僕も長くやっていますが毎回毎回勉強させていただいていますから、一緒に頑張っていきましょう。

神尾さん はい！



撮影後の囲みインタビュー取材

Q. それぞれの役を演じる上で大事にしていることを教えてください。

神尾さん（山川才次郎役） 過去の事件のことはずっと頭の片隅にないと才次郎という役は成り立たないと思うので、それは忘れないようにしようと思っています。巧佐衛門さんといるときの才次郎、英里殿といるときの才次郎、才次郎の雰囲気の違いを大事にしていきたいところです。

椎名さん（玉田巧佐衛門役） すごく難しい役です。赤神先生の原作を拝読してからずっと思っていることですし、やったことがないような役ではありますね。だからこそ原作の巧佐衛門に近づきたいと思って、毎シーン（事件発生から）14年間の思いというものを考えながら挑むようにしています。巧佐衛門はとても魅力的な人物なので、気を抜かないように最後までやっていきたいと思います。

山本さん（英里役） デビュー作を太秦でさせていただきましたが、今作は演じたことがない役柄で、所作など初めてのことがかなり多かったです。ここにいる3人全員（の役）がそうだと思いますが、背負っているものが多いと感じていました。その中で英里という役は、（由美役の）財前さんもいらっしゃいますが、皆さんと一緒にいる数少ない女性だなど思っているのですが、明るくできる場所は根っから明るい英里でいつつ、どこか儚さも見えるような女性でありたいなと思いつつ、毎シーン毎シーン臨ませていただいております。

Q. 視聴者の皆さんにメッセージをお願いします

椎名さん 初めて家族旅行で飛行機に乗って連れて行ってもらったのが大分で、別府だったんですね。そして映画で初めて映画祭に呼んでいただいたのが「湯布院映画祭」で、非常に（大分に）ご縁を感じています。今回、大分の皆さんにまず先にお届けできる中で、しっかりといい作品を作ってお届けしたいと思っています。よろしく願いいたします。

山本さん クランクインの地でもありました大分ロケの期間がとても素晴らしかったと実感しています。すごく大切なシーンでもあり、そこで見た景色とか感覚みたいなものがまさに撮影中に思い出されて生きているのを実感しているので、そういった撮影背景も含めて見ていただけるといいなと思っています。

神尾さん 初めての時代劇ドラマなので、もしかしたら時代劇をたくさん見ていらっしゃる方はちょっと拙いと思われる部分もあるかと思うんですけど、僕なりに精一杯、竹田市の歴史からできたこの物語を演じているつもりではありますので、本当に多くの方に見ていただけたらという気持ちです。





TOSは、『わくわくをともに』をキャッチコピーに
2025年の開局55周年のキャンペーンを
2024年10月にスタートしました。
企業理念である『心躍る大分を創る』という思いのもと、
地域活性化に繋がるイベントや番組制作など
様々な取り組みを行ってまいります。

その一つとして、開局以来初の試みとなる
「時代劇」ドラマの制作に挑戦します。
原作『はぐれ鴉』は、内容のドラマチックさはもとより、
大分県民でも知らないような歴史ロマンも描かれています。
大分県・竹田市が舞台となったこの原作を実写化することで、
大分の魅力や歴史を全国に発信したいと考えています。